

液化室だより

東大物性研究所 <http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/labs/cryogenic/>

定期点検を忘れずに！！

研究室では実験等を行うために、寒剤やポンペを使用していると思います。また、液体窒素等を使うために超低温容器やポンペがあり、安全のために酸素濃度計等があると思います。これらは定期的に検査をする必要があり、検査等が適正に行われていないと、性能が発揮できないばかりか非常に危険です。必ず定期的に検査を行って下さい。

超低温容器やポンペは、1年から5年で検査を受ける必要があり、その義務は容器等の所有者にありますのでご注意下さい。液体窒素の自加圧型容器の検査は、液化室でもできますのでご利用下さい。 **液化室で検査が出来ない容器もありますので、詳細はお問い合わせ下さい。**

超低温容器の再検査期間

内容積	製造後の経過年数	1989. 3.31以前に製造した容器	1989.4.1～1998. 3.31に製造	1998.4.1以降に製造する容器
500 L 以下	15年未満	3年	平成10年 4月 1日以降の最初の再検査は、その後の再検査は による	5年
	15年以上 20年未満	2年		
	20年以上	1年	2年	

酸素濃度計は、一般的に半年毎に校正、1年でセンサー交換をした方が良いと言われているようですが、校正等必要のないものもあるようです。酸素の測定原理等については、Webで検索すると出てくるので、興味のある方は検索してみてください。いくつか種類があるようです。

ちなみに、物性研究所低温棟にある圧縮機室や供給室に設置されている酸素濃度計は、隔膜ガルバニ電池式で、このタイプは定期的に調整・交換が必要となります。

本郷の液化機の移設

2007年 2月上旬から本郷の低温センターで、液化機の更新工事が行われています。この更新により廃棄予定だった液化機(TCF-50、液化率150L/h)を柏に移設することにしました。

この液化機が順調に稼働すれば、夜間業務をすることなく通常状態に近い量の液体ヘリウムを供給することが可能となります。

液化機の移設完了は5月末日を予定しており、順調に進めば6月から移設した液化機を運転することになります。

移設に関わる工事等に伴う現液化機の停止期間を出来る限り短くするように計画し、利用者の方々にこれ以上のご迷惑をかけないように努力しますので、ご理解とご協力をお願いします。



移設する本郷の液化機

液体ヘリウムの供給を停止する際には、事前にメール等で連絡致しますので、ご注意下さい。

問い合わせ [E-mail:ekika@issp.u-tokyo.ac.jp 内線:63515]